
バカと舞い手と召喚獣

鉄村28号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと舞い手と召喚獣

【Nコード】

N2980Z

【作者名】

鉄村28号

【あらすじ】

文月学園には天才がいた：

その中性的な顔立ちと召喚獣が持っている複数の扇子からつけられた「文月の舞い手」こと最上隆夜＞＞もがみりゅうやくがFクラスが悪友達と

文月学園に革命を巻き起こす！？

メインヒロインは木下姉

主人公は点数と体術がチート使用となっています
駄文ですが是非暖かい目でみてやって下さい：

主人公設定です（前書き）

タイトル通りです

主人公設定です

最上隆夜＞＞もがみりゅうや＜＜

身長 176？

体重 62？

特徴

目が紅く顔は女性と間違えられるほど整っており、体格は細いが、翔子が雄二にアイアンクローをするときと同じぐらいの握力を持っている

顔立ちが中性的なだけあってナンパされることも多い

小学生の頃、明久と姫路と知り合い友達になり

中学1年の頃、親の都合で転校

ここで雄二、翔子と出会う

さらに木下家とも家族ぐるみの付き合いをしており秀吉と優子とは幼なじみである

召喚獣

服装

召喚獣は黒の袴に青の胴着その上に、後ろに金の最上家の家紋が入

った羽織りを着ている。

武器

・ 諸葛亮が持っていたとされる白羽扇（真・三國無双の諸葛亮の武器）

・ 隠し細工のしている扇子

・ 護身用の短刀

（その後もいろいろ武器を増やす予定）

主人公設定です（後書き）

これからも続きます

プロローグ（前書き）

タイトル通りです

プロローグ

隆夜 side

桜舞う四月…

俺が文月学園に入学してから二度目の春が訪れた。

ピピピピピ…

「うーん、もう朝か…」
……チラ

AM 8…18

……は？

ガバッ

『遅刻だあああああああああああ……』

俺の新学期スタートダッシュ計画ぱーと1が早速崩れてしまった隆夜であった…

文月学園正門前

もう間に合わないと思いゆっくりと正門まで歩いていくと

?? 「遅いぞ!! 最上!!」

と思わず背中がピンとなってしまうほどドスの効いた声:
間違いない

『おはようございます西鉄宗人先生「ガシッ」……何ですか?』

鉄人「誰がそんな名前だといった?」

『じゃあ鉄村鉄一郎「ガンッ!!」……痛い……』

鉄人「フウ、しっかり名前を呼べ馬鹿者」

といいながら鉄人は封筒を差し出す

『ありがとうございます。まあ見てもしょうがないですけど』

鉄人「しかし、なぜよりによって無記名、無記入なんだ?
最上の力だったら確実にAクラスの主席はいけただろ?」

『そんなの面白くないじゃないですか 俺はAクラスに挑戦する
ほうがおもしろかったんで』

鉄人「ハア…まあいい、さっさと教室へ行け」

『はいよ』

と、俺は旧校舎のほうに向かった

《最上隆夜……Fクラス》

プロローグ（後書き）

どんどん行きます

出会い 悪友と親友（前書き）

【第一問】

問 以下の問いに答えなさい

『調理の為に火をかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

姫路瑞希の答え

『問題点……マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であるという点。』

合金の例……ジュラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っ掛け問題なのですが姫路さんは引っかかりませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点……ガス代を払ってなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません

吉井明久の答え

『合金の例……未来合金（凄く強い）

教師のコメント

凄く強いといわれても。

最上隆夜の答え

『合金の例……鉄人の肌』

教師の答え

「西村先生が生徒指導室で待ってるそうです。」

出会い 悪友と親友

隆夜 side

俺はAクラスの教室を見ず、そのままFクラスの前へと向かった

と、そこへ

「あれ？隆夜？？」

もう聞いているだけでバカだとわかりそうな「失礼なっ！！いくら何でもそこまでバカじゃない！！」……ごほんまあいい

『久しぶりだなバカ……バカ久』

明久「そこは言い直そうよ！！僕の名前は吉井『バカ久』だって…違あう！！だからぼくは『はいはいわかってるって。ところで明久、お前Fクラスか？』

明久「うう…そうだけどリュウはAクラスだよね？？なんでこんな所にいるの？」

『ホレ』 と明久に封筒を渡す

[illegible]

事情説明中

明久「なるほど、簡単に言うとは雄二に頼まれた訳ね」

『まあ、そういうこと（笑）』

明久「まあ一年間よろしく頼むよ。」

『ああ、こちらこそよろしく頼む』

こうして二人はFクラスのドアを開けた

明久「すいません遅れちゃいましたっ♪」

「早く座れ、このウジ虫野郎」

うっわ、先に行った明久が物凄い罵倒されてる

これやられたら泣きそうになるよ…

よし仕方ないここは…

『すいません遅れました…（涙）』

?? 「早く座れ、この糞虫野郎」

……………（；、ㄥ）

?? 「ああ、隆夜が悪い悪い」

明久 「明らか僕とは待遇が違うよね!？」

?? 「黙れウジ虫、教室が腐る」

明久 「雄二なんて嫌いだっ!」

そう、先程罵倒された親友を罵倒した相手こそ

このFクラスの代表、

坂本雄二だった

出会い 悪友と親友（後書き）

自分の小説の書く能力は0に等しい

波乱万丈?の自己紹介(前書き)

【第二問】

問以下の意味を持つことわざを答えなさい

姫路瑞希の答え

『(1) 弘法も筆の誤り』 『(2) 泣きっ面に蜂』

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら『河童の川流れ』や『猿も木から落ちる』、

(2)なら『踏んだり蹴ったり』や『弱り目に祟り目』などがありますね。

土屋康太の答え

『(1) 弘法の川流れ』

教師のコメント

シュールな光景ですね。

吉井明久の答え

『(2) 泣きっ面蹴ったり』

教師のコメント

君は鬼ですか。

最上隆夜の答え

『(2) 3日間ソルトウォーターの吉井明久にサルモレラ菌』

教師のコメント

吉井君にはあんまりだと思います

波乱万丈?の自己紹介

『よお、雄二振り分け試験の前日以来だな』

雄二「ああ、お前なら来てくれると思った。これで戦力は大幅に増したな。」

すると

「「総員!!坂本を狙ええええ!!」」

ダッ(雄二の反射的回避)

カカカカッ(カッターが黒板に刺さる音)

アブねえ!!もう0.1秒反応が遅れたら雄二に十数本が刺さっていた

あれが明久だったら

何本かは刺さってたな…

雄二「危ねえ…一体何しやがる!!」

「「黙れえ!!そこにいる美少女といちゃつきやがってえ!!ぶち殺す!!」」

………ほう

『そうかそうか俺が美少女かあ…』

てめえら覚悟はできてんだろぅなあ』

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

カタカタカタカタカタ（雄二と明久が抱き合いながら震えている様子）

バキガスガスドガグワシャーン！！

ーーーーしばらくお待ち下さい

みんな死んでる間に担任福原先生登場

大怪我をおったはずのFFF団がなぜか復活

福原「それでは、自己紹介でも始めましょうか。そうですね。廊下側の人からお願いします」

木下「うむ。木下秀吉じゃ。演劇部に所属しておる。そこにいる最上とは幼なじみじゃ。一年間よろしくたのむぞい。」

まずは秀吉か。

幼なじみとはいえかれこれ2年はあってなかったな。

「……………土屋康太」

誰かと思えば康太か。

……また保健体育教えてもらうか

んーでも康太が言ってることさっぱりわかんねえしなあ

言っただとしても鼻血だして倒れちまうし…

「ーーです。海外育ちで、日本語は会話はできるけど読み書きが苦手です。」

ん？女子か？ま、このむさ苦しい中で紅一点。このクラスの中で溶け込むのは厳しいと思うが…

「趣味は吉井明久を殴ることです♪」

前言撤回。彼女はコンマ一秒でこのクラスに溶け込めるはずだ。断言してもいいぐらいに。

おっと、次は俺の番か…『最上隆夜だ。一年間よろしく頼む。』

……………オオオオオ!!!!!!

「『最上ー!! 結婚してくるぶしから下の感覚がないいいいい
!!!!!!』」

『次言ったらクロス。わかったな?』にこ（黒笑）

ったく俺のどこがいいのだか…

「えーっと吉井明久です。気軽にダーリンって呼んで下さい♪」

「「ダアアーリーイイン!!!!!!」」

……………おげえ気持ち悪い

……………本当にこんなクラスで大丈夫なのか?

波乱万丈?の自己紹介(後書き)

くおまけく

雄二「おい、作者。いつまで布団の中引きこもってんだ、起きろこら。」
げしっ

作者「痛えええええ!!」

「なにすんだてめえ!! やんのかこら!？」

スチャ (作者がサイダーを構える)

スチャ (とっさにコーラに手をかける雄二)

ピチヨン

!!!!!!

シャカシャカシャカ

プシャーーーーーー

バタバタバタバタ

作・雄「目、目がああーーーーー!!」

明久「はぁ……次回も《バカと舞い手と召喚獣》をお願いします
……って作者!それ僕のサイダーだよ!!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2980z/>

バカと舞い手と召喚獣

2011年12月10日21時48分発行